



上流に、産廃処理施設はいらぬ

松竹秀樹 議員

問 八女市との境に産業廃棄物中間処理施設の建設が計画されている。下流域の住民は、処理施設に起因する騒音、粉じん、水質汚染、大気汚染など環境に重大な影響を及ぼしはしないかと不安を抱いている。

市長 筑後市の住民に、不安を与える。その施設が出来ることによって生活が変



利用者でにぎわっている「よらん野」

問 道の駅は、地域の活性化、農業の振興、地産地消、食育の推進に貢献できる。第三次総合計画では、道の駅建設がシンボルプロジェクト

道の駅は出来るか 「よらん野」との関係はどうなのか

問 道の駅は、地域の活性化、農業の振興、地産地消、食育の推進に貢献できる。第三次総合計画では、道の駅建設がシンボルプロジェクト

わる、犯される、こういうことを筑後市が見過ぐすといいことは絶対に許されないうことである。行政の責任ある立場として、そのことはきつちりと、もしそういう事態の進展の中であるとするならば、筑後市としての言い分を八女市にも、あるいは建設をされる方に対しても話しをする。

市長 私は、道の駅構想を断念したわけではない。「よらん野」の加工品をつくるものを含めた計画案もJAのほうで検討されているので、その付近と道の駅とを融合したような形のものになるのか。しかし、いずれにしても、442号バイパス並びに南北線が進んでいる中、地域の活性化の施設として一つの考え方のまとめをしなければならぬと

研修レポート

議員研修会に参加

8月27日、福岡市で開催された県下市議会議長会主催の研修会に当市議会も参加した。講師は早稲田大学大学院教授の北川正恭氏、国交省九州整備局総務部長の渋谷和久氏など。



議員研修風景

過ぎていなかったか」と疑問を投げかけました。

後子ども教室推進事業」がある。

子ども達の安全・安心な活動拠点(居場所)づくりが求められている現在、「子どもの居場所づくり」において先進的な取り組みをしている奥州市を視察した。近年、子どもを取り巻く社会生活環境の変化の中水沢青少年育成市民会議では、子供主体の活動に主眼を置き、大人の役割を子供の立場で判断した社会づくりで、子供から大人に向う自立へと導いている。

いじめ問題、不登校児童徒など児童から高校生まで放課後学び集える子供本位の居場所のあり方が自主的運営でなされていることに感心をした。

問 道の駅は、地域の活性化、農業の振興、地産地消、食育の推進に貢献できる。第三次総合計画では、道の駅建設がシンボルプロジェクト

総務文教委員会

平成19年7月31日(8月2日)
岩手県 奥州市人口 42,728人
遠野市人口 32,364人

厚生労働省が支援する共働き家庭など留守家庭のおおむね10才未満の児童に対する「放課後児童健全育成事業」と、文部科学省が支援する全児童を対象に、余裕教室等を利用した「放課

また遠野市での研修は、日本の原形とも言われる付まいを今も残した城下町で地域産業の起業と活性化のため「日本のふるさと再生特区」の認定を受け、100年ぶりのどぶろく作りを中心にした民宿の消防設備の規制緩和や、どぶろくの製造